

2024年 3月 26日

新 宿 区 長 宛て

団 体 名 (特非) あそびと文化のNPO
新宿子ども劇場

所 在 地 新宿区四谷2-10-8
(フリガナ) フジカ サエ

代表者氏名 理事長 藤岡 紗絵

新宿区協働推進基金助成金事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第10条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 収支計算額	収入	591,083 円
	(内助成金)	335,000 円
	支出	591,083 円

2 助成事業

事 業 名	子どもの文化体験格差解消プロジェクト
実施の日時又は期間	2023年7月8日(土)～2024年3月9日(土)
対象者の範囲及び人数	① アーティスト派遣事業 小学校2校で実施 参加：延べ130名(小学生) 教員5名 ② あそびの出前事業 学童クラブ5か所で実施 参加：延べ166名(小学生) スタッフ18名 ③ 講演会 2回開催 参加：延べ58名(区外3名) ④ 文化里親寄付制度への準備事業 実行委員会 8回開催 参加：延べ133名(区外6名) *各事業内訳については別紙参照
事 業 内 容	・子どもの文化体験格差解消のために以下の事業を実施した。 ① アーティスト派遣事業 小学校にプロアーティストを派遣し、プロのアーティストによる体験授業を実施した。 ② あそびの出前事業 学童クラブ等にあそびのファシリテーターを派遣し、子どもたちのあそびの幅を広げるプログラムを実施した。 ③ 講演会 子どもの文化体験格差解消についての理解を深めるための講演会を実施した。 ④ 文化里親寄付制度への準備事業 実行委員会 実行委員会では、「文化体験の機会が少ない子どもたちに文化の機会が届けられるのか」をテーマに事業の準備を行った。 また、実行委員会の委員に関しては、新宿区地域コミュニティ課を通して区内NPOへメールを送り、区民参加を募った。

具 体 的 な 活 動 状 況	① アーティスト派遣事業 参加:延べ130名（小学生）教員5名 ・12/12(火)1, 2時間目 戸山小学校 2年生53名 講師：楠原竜也（他4名） 授業の内容：コンテンポラリーダンスの手法を活用して体を使った表現活動を実施。講師の表現を見て、ドラムのリズムに合わせて各自が表現していく。最後は目と目を合わせてお互いの動きに合わせてながら表現した。 ・12/19(火)3, 4時間目 市谷小学校 6年生77名 講師：柳亭小燕枝師匠 授業内容：落語を通して想像・創造を体感。落語の表現方法をまずは教えてもらった。続いて、扇子や、手ぬぐいを活用しての表現方法を教えてもらい、実際に数名の児童と先生が高座で披露。最後に一席、師匠の落語を聞く。 ② あそびの出前事業 延べ166名（小学生）スタッフ18名 ・プログラムA みんないっしょに名探偵！ 講師：大森靖枝（うさぎの森企画） ごっこあそびの手法を取り入れ修業をとして五感あそびをする。 11/28(火)本塩町学童 参加34名 スタッフ4名 12/6(水)落合第四小学校内学童クラブ 参加34名スタッフ2名 ・プログラムB みんないっしょにあそぼう！ 講師：荒木 範子・大野 愛・小山 祐子・乗松 好美 集団遊び・じゃんけんあそび（わらべうた）・工作のプログラムをグループで体験 10/11(水)戸山小学校内学童クラブ 参加58名 スタッフ6名 1/24(水)落合第一小学校内学童クラブ 参加30名スタッフ4名 2/7(水)四谷第六小学校内学童クラブ 参加10名 スタッフ2名 ③ 講演会 延べ58名（区外3名） 7/8(土)「おとなりはどんな子？」子どもたちの今を知る パネリスト：小林普子・渡辺勝彦・高田幸子・岡崎淑子 参加者 34名 講演会の概要：区内の子ども達と関わり支援をしている団体がどのような活動をしているのか、また、そこに来ている子どもたちの様子を伺うことで、世代格差や障がい乗り越え、子ども達が安心して生活していくための地域を作るヒントを得た。 12/3(日)「育つなら新宿」子どもの身近に文化体験を 講師：小川智紀 参加者 24名 講演会の概要：区内の子どもの現状と団体の活動、この助成金で取り組んでいる内容を説明し、講師より、国の文化、政策や行政、NPOの役割についての講演を行った。文化権の必要性について説明を受けてからパネルディスカッションを実施した。 ④ 文化里親寄付制度への準備事業 実行委員会 8回開催 開催日:7/8・9/9・10/14・11/11・12/3・1/13・2/10・3/9 参加 延べ133名（区外6名） ・どのようにしたら文化体験の機会が少ない子どもたちに文化の機会が届けられるのか？制度やしくみ、ネーミングなど委員会で相談しながら進めた。
------------------------	--

事業の成果	本事業は、はじめに、今の新宿の子ども達の状況を知る講演会からスタートさせた。講演会では、自分の子どもを含めて、地域にはいろいろな境遇の子ども達がいることを知るきっかけになるとともに、子どもの文化体験格差をリアルに感じる事が出来た。そして文化里親寄付制度の必要性についても理解が進み、次年度に向けた具体的な取り組みを決めることが出来た。 また、HPを開設し寄付をしやすい環境整備を進めることができた。 (（特非）あそびと文化のNPO新宿子ども劇場：https://kodomogekijo.net/17088368906427) 事業を進めるにあたり、区議や区内登録NPO団体へも情報を発信し、広く広報することが出来た。今後は、他団体と文化でつながりを深め、協力をしてもらいながら、一人でも多くの子ども達に文化体験を届けていきたい。 ① アーティスト派遣事業 小中学校に個人または少人数の芸術家を派遣し実技披露・実技指導を実施することにより、子ども達の豊かな創造力・想像力・思考力・コミュニケーション能力などを養うとともに、子どもたちには、活動を通じて他者発見・自己発見につなげてもらうために実施。子どもたちのキラキラした表情にふれ、あそびや文化体験の大切さを先生方にも感じてもらえた。 ② あそびの出前事業 学童クラブ等へ多世代で多様な遊びを提供し、子どもたちに文化体験の機会を届ける。加えて、そこに携わる大人にあそびの広がりや、あそびを通した子どもたちの多様な側面に気付いてもらうために実施。普段とちがった子どもたちの表情を見てもらい、集団での遊びをしつがらない児童が積極的に遊ぶ様子も見られた。 今年度実施した学童より、来年の実施についての問い合わせも来ている。 ③ 講演会 講演会Ⅰ「おとなりはどんな子？」子どもたちの今を知る各団体の活動を通して、子ども達を取り巻く環境、周りとのように関わっていくのかを考えるきっかけになった。 また「困った子は困っている子」「生物学的親と社会的親」というキーワードを共有することが出来た。 講演会Ⅱ「育つなら新宿」子どもの身近に文化体験をすべての子どもたちに文化体験の機会を届けることの大切さと、それを支えるために民間・行政・企業がそれぞれの立場でできる事を見極めて協働していくことの必要性を理解した。 ④ 文化里親寄付制度への準備事業 実行委員会 ネーミングからシステムまで、実行委員会を通して話を重ね制度を組み立てる事が出来た。 トライアルとして1月の鑑賞会に「みらいチケット」を発行し、4つのNPOを通じて3組の親子の参加あった。 最後の委員会で次年度の寄付募集要項を整えることができた。 また、実績報告書を500冊印刷することが出来た。これを活用して次年度以降、寄付者を募るとともに、協力団体も広げて、文化体験格差について理解を広めていきたい。
--------------	---

収支決算書

費 目		予 算 額	内 訳
支 出 区 分	①使用料及び賃借料	14,800 円	7/8講演会：若松地域センター2,400円+600円=3,000円 12/3講演会：戸塚地域センター5,800円 実行委員会：戸塚地域センター6回6,000円 ゆったりへの 2回 0円
	②消耗品及び印刷費	73,930 円	テーブルフラワー(7/8分)2,850円 ※(12/3分)3,305円はポイント利用のため対象外経費へ あそびの会材料 780円、コピー用紙(A4:500枚×10箱)4,090円、 カラーペーパー(A4:500枚)@780×2×3色=3,120円 封筒(角2:200枚)2,388円、付箋(50冊)1,884円、 トナー・インク 16,608円 チラシ(1,500部)4,400円+(2,500部)5,790円=10,230円 報告書(500部)25,730円 資料印刷 6,250円
	③委託費	10,000 円	報告書制作委託 10,000円
	④講師謝礼	176,895 円	7/8講演会5,000円×3名=15,000円 12/3講演会30,000円+165円=30,165円 派遣事業(35,650円+165円)×2名=71,630円 あそびの会30,000円×2回+100円=60,100円
	⑤その他謝礼	87,260 円	7/8講演会 3,000円×2名=6,000円 12/3講演会3,000円×3名=9,000円 あそびの会3,000円×7名(10/11 2名,11/28 1名,1/24 2名,2/7 2名)=21,000円 派遣事業3,000円×3名(12/12 1名,12/19 2名)=9,000円 派遣事業補助講師(10,400円+165円)×4名=42,260円
	⑥交通費	0 円	
	⑦保険料	0 円	
	⑧その他諸経費	6,950 円	チラシ発送 670円 区議宛てお知らせ 3,760円 資料送付用切手 2,520円
	⑨感染症等対策経費	0 円	※上限20,000円
	⑩人件費	123,279 円	※下記「事業費」の25%以内 (123,279) 一般事業助成事務 1,200円×40時間×2名+1,200円×24時間=124,800円 講演会(7/8,12/3) 3,000円×4名=12,000円 あそびの会(10/11、11/28、12/6、1/24、2/7)3,000円×17名=51,000円 派遣(12/12、12/19) 3,000円×5人=15,000円 印刷物作成 2,500円+2,500円=5,000円 ※合計207,800円のうち84,521円は助成対象外経費へ
	事業費（①から⑩の合計）	493,114 円	
	⑪ファンドレイジングに関する経費	10,143 円	※事業費の5%以内 (24,656) メール便1,672円、レターバック7,400円、はがき1,071円
	⑫助成対象経費（事業費+⑪）	503,257 円	
	⑬助成対象外経費	87,826 円	消耗品及び印刷費 3,305円 人件費 84,521円
	事業総額	591,083 円	

内 容		予 算 額	積 算 根 拠 (内 訳)			
収 入 区 分	㊦ 事業収入（参加料、資料代等）	24,000 円	講演会2回 500円×48名			
	④ 寄附金	33,000 円	3000円×11口			
	㊧ 補助金収入	0 円	予算時		返還額	0
	㊨ 協働推進基金助成金	335,000 円	交付額	364,000	返還額	29,000
	㊩ 団体負担金	199,083 円				
	収入総額	591,083 円				

返 還 金	29,000 円	
-------	----------	--

自己評価表

1 各項目に評価点を付し、「評価の理由」欄には、判断した理由や実績、課題等を記載してください。

【評価点】 4:計画書以上 3:概ね計画書どおり 2:一部計画書どおり 1:ほぼできなかった

評価のポイント	評価点	評価の理由
地域課題や社会的課題に対して成果や効果があったか。	3	コロナ禍を経て、子どもの体験格差が拡大しているという背景から、今回は子ども達がいるところへ文化体験の機会を届けた。アーティスト派遣事業では戸山小学校2年生53名と市谷小学校6年生77名が体験した。 参加した子ども達の満足度は、「やりたい」、「もっとやりたい」と回答した児童数が82%と高い満足度を得られ、子どもにとって良い体験になった。 あそびの出前事業では2つのプログラムを提供。 ・プログラムA みんないっしょに名探偵 ごっこあそびの中にあそびの要素を取り入れたプログラムを2回実施した。 本塩町児童館 34名 落合第四小学校内学童 34名 ・プログラムB あそびの出前講座 集団遊び、昔あそび(じゃんけん、お手玉)、工作を3つのプログラムを順繰りに体験するあそびの出前講座を3回実施した。 戸山小学校内学童 58名 落合第一小学校内 学童 30名 四谷第六小学校内 学童 10名 計166名の児童が、非日常の遊びを体験できた。日常的に生活をしている学童や放課後ひろばで実施したことにより、スタッフにもあそびを共有することができ、新たなあそびの種まきにつながった。後日継続してじゃんけんゲームをしているという報告や、来年度も実施してもらいたいとの依頼が来ている。 講演会は2回開催した。1回目の講演会は「おとなりはどんな子」というテーマで開催。各団体で関わっている子ども達の様子を知ること、「厳しい経済環境、生活環境で育っている子ども」や「行政で支援しきれない子ども達の学びの現状」等、多角的な視野で知ることができた。参加者が各団体の活動を通して、「子どもたちを取り巻く環境」、「周りとうどう関わっていくのか」を考えるきっかけになった。さまざまな環境の中で生活をしている子ども達の話の聞き、地域での関わり、繋がることの大切さを感じる事ができた。 「困った子は困っている子」「生物的親と社会的親」というキーワードを参加者間で共有することが出来た。 2回目の講演会「育つなら新宿」では、新宿子ども劇場がどのような活動をしていて、この文化

		体験格差解消に向けて考えているのかを共有するとともに、文化権は当然の権利として生きるために必要な権利であることを講師の小川さんの講演から知ることができた。 「鑑賞」というと、趣味や余裕がある人が体験するものだという認識があるが、そうでは無く、当たり前には享受できることが必要だと理解したうえで、今後の文化里親寄付制度準備委員会への話し合いを深めるベースとなった。 文化里親寄付制度準備委員会では、その必要性についてから話し合いを始め、制度作りや名称の決定など、次年度の活動を広げて行く準備ができた。トライアルとして実際にチケットを発行し、6名の方に参加してもらうことができた。また、実施したことで見つかった課題については、次年度以降に反映させながら引き続き取り組んでいく。
事業を通じて、多くの区民の社会貢献活動の啓発に役立つものとなったか。	4	この事業を通して、文化里親寄付制度の取り組みについて、どのような仕組みを作ったら文化体験にアクセスする機会が少ない子ども（保護者）にその機会が届けられるかについて討議を重ねた。一つは他団体とつながること。子ども達の状況を知ってもらい、子ども達が心豊かに成長することを願う地域の大人を増やしていくことが必要であると明確化され、次年度以降の活動への指針となった。活動報告書を作成したため、これを活用して、広く区民へ働きかけていく。
事業計画及びスケジュールに沿って事業を実施できたか。	3	概ねすべての事業①アーティスト派遣事業②あそびの出前事業③講演会はスケジュール通り実施ができた。 文化里親寄付制度準備委員会については、団体内では議論がすすめられたが、公募の案内の作成が遅れてしまった。また、公募による参加者が出なかったため、今後はいかに公募委員を参加させていくかについて、周知等を含め検討していく必要があると考える。 あそびの出前事業については広報の時期が、学童クラブの繁忙期と重なってしまい、見落とされていた所もあったため、お知らせする時期を考えた方が良かった。
実施にあたり、必要な人員や安全等の確保がなされたか。	4	学校や学童の現場では、事前に打ち合わせを実施し、安全面の確認をした。 当日は、複数名のスタッフが入り、安全を確認し、事故等は発生しなかった。 コロナ感染症対策についても、関係者やスタッフに確認を行い、事業を実施した。 感染症の流行状況を確認しつつ、体調不良者などは、積極的に休むなどの対策を講じた。

経費見積りは適正だったか。資金確保に努めたか。	3	ぎりぎりの予算であったが、経費見積もりに沿ってすすめられた。事業収入として講演会の参加費を見込んでおり、60名を予定していたところ、48名 8割の参加者があり、収入の確保を達成することができた。 寄付金については、90,000円を予定していたが、結果的に33,000円となった。目標には届かなかったが、ご理解いただけたので、次年度に向けて弾みとしていきたい。
団体の先駆性や専門性を活かすことができたか。	4	長年にわたり、文化体験、あそび体験にこだわって活動しており、その活動経験をベースに本助成事業をすすめたため、当団体ならではのプログラムを実施できた。また、どの事業も、事前に関連団体や関係者とも打ち合わせを重ね、イベント当日が子ども達にとって良い環境で体験できるよう配慮ができた。 例えば、アーティスト派遣事業において、空間が大事になるが、身体表現であっても、活動により空間を仕切り、より集中しやすくした。また、落語体験などは密な空間の方が良いため、校内で最適な会場を先生と相談して用意するなど、専門的に関わってきたことで適切な会場を設定することができた。 文化里親寄付制度については、子どもの育ちには、関係する大人の存在も大事になることを意識し、子どもだけでなく保護者もしくは責任が持てる大人もその子どもと一緒に文化体験ができる制度を考えることができた。
継続性や発展性が期待できるものとなったか。	4	本助成事業のまとめとして報告書を作成した。これを活用して今後、文化里親寄付制度を広く広報し、また、協力団体を増やしていく。年間70名の親子が、新たに文化体験できる環境を整備していきたい。また、ホームページをリニューアルし、寄付のページも作成した。多くの人から気軽に寄付ができる環境も整えることができた。 アーティスト派遣事業とあそびの出前事業については、公共性が高い事業であり、一つのNPO団体が継続して実施していくことはむずかしく、これからは、行政の関係部署へその必要性を説いて行きたい。これも講演会をすることにより気付かされた事である。

(裏面もご記入ください)

2 事業全体を振り返って気づいたこと等をお書きください。

事業を実施したことで見えてきた良かったこと、また課題や改善策。	新宿区内に色々な環境の子ども達がいることを理解できた。当団体は「すべての子ども達に豊かな文化を！」を目指して活動しているが、なかなか出会う機会のない子ども達の存在を知ることができ、その子ども達へのアプローチの仕方についても、他のNPO団体と協力することで道が開けた。しかしながら、この事業をすすめて行くには、寄付者と協力団体へのアプローチが継続的に必要になるので、年間計画を立てて、事業をすすめていきたい。
助成金を利用することで、団体や事業にとって有益となったこと。 (例：事業運営での気づきや工夫、解消された課題等)	公共性が高い事業を展開した。特に小学校へ芸術家派遣事業や学童へあそびの出前事業などの計画をしていく際に、区の助成金事業であることにより、対外的な信頼度が高く、小学校での授業の取り組みもスムーズに打合せがすすめられた。学童へのあそびの出前事業の案内についても、子ども家庭課からネットを利用して告知いただいたことで、事務作業を減らすことができた。また、説明に伺った際も、理解が早く、事業計画通りにすすめる一助となった。 周知に関しては、地域コミュニティ課の協力を得ることが出来、講演会の案内やアンケートなどを区に登録されているNPO団体へお知らせすることが出来た。また、定期的に行っていた文化里親寄付制度実行委員会は、会場を先に抑えることができたため、安定してすすめることが出来た。 その他、講演会に区議が参加いただけたのも一般事業助成事業の採択が得られたためかと考えている。

*参加者アンケートの結果を報告してください。

*事業の成果物(冊子等)、事業の開催時の写真等提出できるものがある場合は、添付してください。